心理学学位プログラム（博士後期課程）
Doctoral Program in Psychology

授与する学位の名称	博士（心理学）〔Doctor of Philosophy in Psychology〕
人材養成目的	心理学とは，人間理解の要として、心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにする学問領域であり，そのために人間が外界からの情報を取り入れ、理解し、最終的に適切な行動を取るにいたる過程を現象的に、機能的に、また、それを支える脳の機能にまでさかのぼって明らかにすることを目的とする学問領域である。こうした心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を身に着け、その上で、社会科学諸領域を初めとする隣接諸領域、学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を持ち、人間研究の専門家として社会に貢献できる人材、すなわち、確固たる基礎、幅広い視野と問題意識、さらに問題解決と情報発信力を持つ心理学領域研究者たる人材を養成する。
養成する人材像	心理学領域の専門的研究職として確固たる視点を獲得した上で、人間を総体として客観的に理解する能力、心の多様性と普遍性を理解する能力、人間と環境との交互作用を理解する能力を基に、人間に関する専門研究者として、問題発見、問題解決、情報発信など社会貢献する能力を持つ人材。中でも、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学領域全体の広い視野を持ちつつ、深く心理学の方法論や知識・技能を体得し、心理学の基礎研究の成果および方法論等を広く社会に還元し、社会貢献ができる人材として、大学教員、研究者および 高度専門職業人の育成を目的とする。また心理臨床学サブプログラムでは、総合的・多面的に心理臨床学を研究し創造的に発展させる能力と実践的に応用するための技術を兼ね備えた大学教員、研究者および 高度専門職業人の育成を目的とする。
修了後の進路	心理学を基礎とする研究職．具体的には，博士特別研究員、特任助教・助教、他大学の研究推進員、科学警察研究所など公的研究機関、民間企業研究所研究員 ほか

ディプロマポリシー

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士後期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、博士（心理学）の学位を授与する。

知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力：未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	心理学特別研究、博士論文作成、学術雑誌への論文発表、学会発表
2. マネジメント能力：俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、達成度自己点検
3. コミュニケーション能力：学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとともに、質問に的確に答えることができるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、学会発表、達成度自己点検
4. リーダーシップ力：リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	心理学特別研究、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、TA、TF（大学院セミナー等）経験
5. 国際性：国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	心理学特別研究における論文指導、博士論文作成（先行研究レビュー並びに研究上の問題検討）に加え、心理学先端研究、大学院共通科目（国際性養成科目群）、心理基礎科学英語の履修、国際会議発表、国際雑誌への論文発表、海外研究者との共同研究

6. 心理学的人間理解力：心理学の知識と方法論に基づき、心と行動の多様性、人―環境の関りを理解する能力	① 人の心と行動の多様性を心理学の知識・方法論から理解できる（または理解しようとしている）か ② 人と環境の関わりを心理学の知識・方法論から理解できる（または理解しようとしている）か	心理学特別研究、博士論文作成、学会発表
7. 心理学的問題解決力：心理学の知識、方法論、倫理に基づき、心と行動の問題を発見・理解・解決する能力	① 人の心と行動の問題を心理学の知識・方法論に基づいて発見し、理解できる（しようとしている）か ② 人の心と行動の問題を心理学の専門性と高度な倫理観をもって問題解決できる（しようとしている）か	心理学特別研究、博士論文作成、学会発表
8. 心理臨床支援能力：心理学の知識・方法論と臨床技能に基づき、心理臨床的支援を実践・育成できる能力	① 人の心と行動問題に対し、心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援を実践できるか ② 心理学の専門性と高度な倫理観をもって心理臨床的支援が実践できる人材を育成できるか	臨床心理学実習、臨床実習場面における実践力、指導力
9. 心理学的情報発信力：高い倫理観をもって、心理学の知識・方法・成果を発信し、社会に貢献・主導する能力	① 心理学の知識・方法論・成果を高い倫理観をもって発信することができる（またはしようとしている）か ② 心理学の知識・方法論と高い倫理観をもって社会貢献することができる（またはしようとしている）か	心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習、博士論文作成、学会発表、インターンシップ
10. 多領域間コミュニケーション力：心理学の専門性を発揮して、他領域・他職種の専門家と議論・協働・主導できる能力	① 心理学の専門家として、他領域・他職種の専門家と議論・協働・主導ができる（またはしようとしている）か ② 心理学の専門性を活かして、他領域・他職種の専門家と議論・協働・主導ができる（またはしようとしている）か	心理学研究マネジメント実習、心理学インターンシップ、博士論文作成、学会発表、インターンシップ

学位論文に係る評価の基準

筑波大学大学院学則に規定された要件を充足した上で、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験によって以下の2つの基準を満たすことが確認され合格と判定されること。

1. 学位論文において、心理学分野における新たな学術的知見が十分含まれる。
2. 心理学分野で自立した研究者として研究活動を行うに必要な高い研究能力を有する

（評価項目）

1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、心理学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。
2. 心理学分野の発展に寄与するオリジナルな研究成果が、学術論文として発表するのに相応しい量含まれていること。
3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。
4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。
5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、心理学分野の博士論文に相応しい形式にまとめてあること。

なお、学位論文の審査を願い出ようとする者は、事前に専攻における予備審査に合格しなければならない。

（審査体制）

博士学位論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と3名以上の副査で構成する。審査委員のうち少なくとも1名は、当該学位プログラム担当教員以外から選出される者とする。

カリキュラム・ポリシー

心理学学位プログラムでは、人間理解の要として心とは何かを問い、心のはたらきを明らかにすることができるよう、心理学領域全体の知識・方法論・技能・価値観を深め、隣接諸領域・学際研究として展開可能な複合領域との多様かつ密接な関係性を保ちつつ、人間科学の専門家として社会に貢献できる問題解決能力を育成していく。

教育課程の編成方針	本学位プログラムでの学修目的は，学位論文作成のための研究活動の推進にある。このため、心理学特別研究を置き、複数の指導教員によるチーム指導体制の下、実践的に研究を進めることにより様々な能力を涵養していく。加えて、心理学的情報発信力、多領域間コミュニケーション能力の育成のために、心理基礎科学サブプログラム、心理臨床学サブプログラムをおいた上で、それぞれの領域に応じた実習科目を設置し、能力育成を図る。 「心理学先端研究」によって、広く心理学研究について学ぶこと、および理学特別研究を中心とした学位論文作成研究によって、心理学的問題発見と人間理解力ならびに心理学的問題解決力を育成する。 これらの専門コンピテンシーは知の創成力を身につける基盤となる。

	博士論文に関する報告会の実践により，心理学的情報発信力ならびに多領域間コミュニケーション能力を身につける。これらは、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力の基盤となる。 また、心理基礎科学サブプログラムでは、心理学実験実習、心理学研究マネジメント実習１により、学士課程学生のインストラクタを務めることにより、心理学的情報発信力ならびにコミュニケーション能力を身につける。心理臨床学サブプログラムでは実習科目により心理臨床実践力を身につける。 これらに加えて、学術院専門共通基盤科目、大学院共通科目を履修することにより、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性を身につける。
学修の方法・プロセス	学位プログラムの集大成ともいえる学位論文作成研究を中心に、必要な能力涵養のための学修機会を設置する。学位取得論文研究の段階的実施として、1年次に仮投稿論文の作成、構想発表、2年次以後、必要要件がそろった時点で、学位論文予備審査を受け、本論文執筆・提出、最終口頭試問を行うが、こうした学位論文作成研究については、指導教員と副指導教員がチームを組んで、複数教員研究指導体制により、幅広い視点からの研究推進能力を獲得する。
学修成果の評価	・各授業科目では、担当教員による厳正な教育評価を行う。 ・1年次には、6月に投稿論文形式レポートを提出し、論文発表の基本的技能の状態を評価する。また11月に博士論文構想発表会を行い、研究全体の枠組構成の状況を把握する。 ・各年次末に、研究経過報告ならびに研究業績一覧の提出を求め、1年間の研究活動について評価を行う。その際、正副指導教員全員と個別に面談をし、複数の方向性からの評価を行う。 ・学位論文提出予備審査では、学位プログラムで研究指導を行う全教員がプレゼンテーションに基づき、学位論文のための研究の仕上がりについて、検討を行う。原則として予備審査会は毎年5月、10月、12月のいずれでも実施可能な体制を作る。 ・予備審査を通過した論文は、論文受理後に論文審査会を構成し、公開で口頭試問を行うことで、心理学研究としての総合的評価、ならびに学位取得に必要な諸能力の獲得について評価を行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	心理学学位プログラム（博士後期課程）では、心理学に関わる研究者・大学教員あるいは高度専門職業人を目指す人材を募集する。大学院前期課程（心理学関連）を修了したばかりの者ではなく、既に社会人として，心理学に関連した専門の業務に携わっている人材を募集する。
入学者選抜方針	・入学試験は、専門外国語（英語）ならびに口述試験により選抜を行う。 ・心理学学位プログラム（博士前期課程）からの内部進学特別入試を実施し、特に優秀な人材の学位（博士）の修得を促進する。